

## □ 映画美術スタッフ塾講義作品・概要

『浮草』  
1959年

監督：小津安二郎      撮影：宮川一夫  
美術：下河原友雄

『お早よう』のコンビ野田高梧と小津安二郎の共同脚本を小津安二郎が監督したもので、ドサ廻り一座の浮草稼業ぶりを描いたもの。

撮影は『鍵(1959)』の宮川一夫が担当した。

### あらすじ

志摩半島の西南端にある小さな港町。そこの相生座に何年ぶりかで嵐駒十郎一座がかかった。座長の駒十郎を筆頭に、すみ子、加代、吉之助など総勢十五人、知多半島一帯を廻って来た一座だ。駒十郎とすみ子の仲は一座の誰もが知っていた。だがこの土地には、駒十郎が三十代の頃に子供まで生ませたお芳が移り住んで、駒十郎を待っていた。その子・清は郵便局に勤めていた。お芳は清に、駒十郎伯父だと言い聞かせていた。駒十郎は、清を相手に釣りに出たり、将棋をさしたりした。すみ子が感づいた。妹分の加代をそそのかして清を誘惑させ、せめてもの腹いせにしようとした。清はまんまとその手にのつた。やがて、加代と清の仲は、加代としても抜きさしならぬものになっていた。客の不入りや、吉之助が一座の有金をさらってドロンしたりして、駒十郎は一座を解散する以外には手がなくなった。衣装を売り小道具を手放して僅かな金を手に入れると、駒十郎はそれを皆の足代に渡して一座と別れ、お芳の店へ足を運んだ。永年の役者稼業に見切りをつけ、この土地でお芳や清と地道に暮らそうという気持ちがあった。事情は変わった。清が加代に誘われて家を出たまま、夜になりても帰って来ないというのだ。駅前の安宿で、加代と清は一夜を明かし、仲を認めてもらおうとお芳の店へ帰ってきた。駒十郎は加代を殴った。清は加代をかばって駒十郎を突き飛ばした。お芳はたまりかねて駒十郎との関係を清に告げた。清は二階へ駆け上がった。駒十郎はこれを見、もう一度旅へ出る決心がついた。夜もふけた駅の待合室、そこにはあてもなく取り残されたすみ子がいた。すみ子は黙って駒十郎の傍らに立って来た。所詮は離れられない二人だったようだ。

### 主要キャスト・スタッフ

#### キャスト

・嵐駒十郎    二代目中村鴈治郎  
・加代        若尾文子  
・吉之助     三井弘次  
・爾 弁      伊達正  
・矢太蔵     田中春男  
・六三郎     花布辰男  
・庄 吉      丸井太郎  
・木 村      星ひかる  
・本間清     川口浩  
・座長(大)の旦那    笠智衆  
・小川軒のあいこ    野添ひとみ  
・小川軒のあいこの父親    宮島健一  
・小川軒のあいこの母親    高橋とよ

#### スタッフ

・すみ子    京マチ子  
・し げ     浦部染子  
・仙太郎    潮万太郎  
・正 夫     島津雅彦  
・亀之助    中田勉  
・長太郎    藤村善秋  
・杉 山     入江洋佑  
・本間お芳    杉村春子  
・船 員     三角八郎  
・小川軒の客    南方伸夫  
・爺さんの客    酒井三郎

・監 督    小津安二郎  
・企 画    松山英夫  
・脚 本    野田高梧・小津安二郎  
・製 作    永田雅一  
・撮 影    宮川一夫  
・音 楽    斉藤高順  
・美 術    下河原友雄  
・照 明    伊藤幸夫  
・録 音    須田武雄